

問

- 茶園改植時の基盤整備は
- 川根茶業センターとの連携を
- 地域農業としての取り組みは



高畑雅一議員

質問

山間地の高品質のお茶が見直されているなか、厳しい立地条件の中で生産されている傾斜地の茶園を維持し、次世代に継いでいくには、改植時に小規模な茶園基盤整備にも助成が必要なことだと考えるがいかがか。

町長 本町茶業振興の基礎というべき茶園更新事業に果たす役割は大きなものがあると考えています。また、茶園改良事業と同様に、川根本町特産物振興事業補助交付要綱の自力作業道新設事業に基づき、作業道開設事業への助成策を講じています。今後は、従来の茶園改良事業、自力作業道新設事業などと共に茶園の段差解消や畝方



茶園基盤整備

質問

川根茶業センターとの関連をどう進めていくのか。

町長 農協川根茶業センターは、平成17年強い農業づくり交付金事業により整備された施設であり、本町茶流通の基点であることは皆様認識のとおりであります。町としては、

茶園の段差解消や畝方への統一といった小規模の基盤整備事業に対する支援策の必要性について調査・検討を進め、さまざまな茶業関連施策を再編しながら

茶業を取り巻く状況に対応した基盤整備を進めていきたいと考えています。

いと考えています。年数回の定期的な意見交換する場も設けております。地域の茶業センターとしての機能をより一層高めていただくよう、行政としてさまざまな連携強化、支援を行ってまいります。

質問

川根茶の現状を把握し、製造加工、販売に至るまで地域農業として取り組んでいくのか。

町長 茶業界を取り巻く状況は大変厳しい状況であり、本町茶業においても流通生産等さまざまな課題を抱えている。今年度農家に対して今後の農業経営に関する意識調査を実施し、その結果を集計分析を行っているところ

です。町としては、交際であり、認定農業者の農業改善計画更新に個別面談による状況確認を実施しました。今後は共同工場において同様の個別面談を実施する予定であり、町茶業



緑のたまてばこ

振興協議会に設置した農業振興実務担当者会議を中心に、川根茶及び町農業の状況の再確認をし、本年度中に茶業振興指針を設定する予定である。今後はこの指針に基づき農業振興策を講じていく、来年度において消費者における川根茶の現状と再認識をするマーケティング調査や、農業振興プランを進め、活力ある地域農業のまちづくりを目指して行く厳しい情勢の中では、個人では限界があるかと思っっている。その受け皿として、大型茶工場、地域、地縁の方々の

答

- 茶業状況に対応し進めていく
- 連携強化を図っていく
- 茶業振興指針を策定する

の地域を中心とした農業組織等再編を考えながら、その中に個人の自主性を生かす仕組みを作ることが必要かと思っております。